

# 暴力や防火対応訓練

## 京ア二事件受け音羽病院

山科

京都アニメーションの放火殺人事件を受け、京都市山科区の洛和会音羽病院は10日、防犯・防火訓練を行った。職員約50人が参加し、病院内で暴れる患者への対応や防火設備

の取り扱い方を学んだ。

防犯訓練では、患者が職員を脅したり、胸ぐらをつかむなどの暴行をしたりする状況を想定した。窓口に来た患者役が大声で怒鳴り

始めると、職員を現場に集めて、他の患者に迷惑を掛けないように個室へ連れて行った。暴行が行われると警察を呼んだ。

参加した女性職員は「警察へ連絡するタイミングに悩んだ」と話し、患者の対応にあたった男性職員は「他の職員に何かしなくてと指示する余裕がなかった」と連携の重要性を実感していた。

防火訓練では、消防OBの職員から「2カ所以上の避難経路を覚えるように」「防火扉の前には物を置かない」などのアドバイスを受けた。排煙装置や屋内消火栓、消火器の使い方も確認した。



病院内でトラブルを起こす患者役の男性(中央)に対応する職員たち—京都市山科区・洛和会音羽病院

(峰政博)